都市再生整備計画 事後評価シート 各務原東部地区

平成29年3月 岐阜県各務原市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名 各務原市				t	也区名	各務原東部地区				面積	400	
交付期間	平成24年度~	平成24年度~平成28年度		平成28年度			交付対象事業費			452 国費率		0.4			
									事業名						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、	基幹事業		(仮称)木曽川河畔公園整備)、地域生活基盤施設事業(広場)(木曽川河畔広場整備、大安寺川河畔広場整備)、地域生活基盤施設事業 (情報板) (大安寺川周辺地区サイン整備、各務野歴史街道サイン整備)、高 8 形成施設(自然色舗装)(木曽川河畔遊歩道整備、大安寺川河畔遊歩道整備、木曽川チャート遊歩道整備、おがせ池歩道整備)、高質空間形成施設(カラー舗装)(各務原東部地区周遊ルート整備)											
	実施した事業	提案事業	地域創造支援事業(歴	b域創造支援事業(歴史拠点・景観資源のPR活動、景観重要建造物保存事業、家屋等修景補助事業)、事業活用調査(事業効果分析調査)、まちづくり								動推進事業(研修・ワークショッ	プの開催支援)		
			事業名					削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間形成施設(自	質空間形成施設(自然色舗装)(おがせ池歩道整備)					木の根が舗装を持ち上げ歩行に危険を及ぼすことになったため、緊急性を要することから市道路課(市単独費)にて歩道舗装修繕工事を実施したため、当計画での事業を取りやめる。						
			地域生活基盤施設(広場)(坊の塚古墳広場整備)					岐阜圏内2番目の前方後円墳となる坊の塚は、これまで地域住民所有であった ため有効的な活用がなされていなかった。このため、本事業でこれを活用し市民 が集う広場として整備し地域の歴史を紹介する。				「(指標1)拠点間の歩行者数に関わるため、目標値を600人から612人へ変更して対応した。			
	新たに追加し		地域生活基盤施設(広		いの場合して活用する。				影響なし。						
	た事業		高質空間形成施設(歩		現在、大安寺川遊歩道利用者が使用できるトイレは、中山道鵜沼宿内にしかないため、地域住民や遊歩道利用者から周遊ルート上へのトイレ設置の要望を受けている。当初、大安寺川河川敷への整備を予定していたが、河川管理用道路上であることから設置ができないため、本事業を追加する。				E (指標1)拠点間の歩行者数に関わるため、目標値を600人から612人へ変更して対応した。						
	六八世間	提案事業		変~平成28年度 交付期間の変更による											
	交付期間 の変更	当 初 変 更	平成24年度~			期間の変更による事業、 標、数値目標への影響					=	=			
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況		指標	単位	従前	i值	目標値	直	数	値	目標	1年以内の	効果発現要		フォローアップ	
	 指標1			409	基準年度 H24	612	目標年度 H28	モニタリング	評価値	達成度 O	達成見込みあり	(総合所見) 中山道鵜沼宿、おがせ池、村国座等 ・務野歴史街道」が整備されたことに	芽を結ぶル ー ト「各	予定時期 平成29年4月	
	指標2	歩行者の快適性		24	H24	85	H28		97	0	なし あり	ネットワークが強化され、歩行者数0 遊歩道の整備やカラー舗装の実施 に親しむことが出来る歩行空間が確	により、安全で自然 it保された。	平成29年4月	
	1日保之	少17年の沃適性		24	F124	85	П20		97	U	なし あり	個人所有の文化財や歴史資源等の 歴史的な景観の維持が図られている 木曽川河畔遊歩道及び大安寺川河	る。	十八人之号十十八	
	指標3			12	H24	100	H28	_	100	0	なし	- される歩行者空間にサインが整備さ ネットワークが形成された。		_	
	指標4			49.44	i		1	-	14	0.4	あり	#1 PP 20 7P TF 1			
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	7.0.14.0	指標	単位	從前	基準年度	目標値	目標年度	モニタリング	値 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要 (総合所見)		フォローアップ 予定時期	
	その他の数値指標1	数值指標1													
	その他の数値指標2	数值指標2													
	その他の数値指標3	[標3													
	その他の数値指標4			。 作さりす!)。。。	104 " 字合系	₹ Z × c o + 0/4 × □/4	好 早知な活	田」+-教供が伝わ	カナハス	0. トの同気が多い					
4)定性的な効果 発現状況	· 今後、木曽川河町	#遊歩道の利	用を希望する意見が多く きらに広がることを望む。	(79.6 %)、整備完				用した登価が行れ)れに C いる" 52.2 '	%との回合か多い	' o				
5)実施過程の評価			実施内容					実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		なし都市					生整備計画に記載し、実施できた 生整備計画に記載はなかったが、実施した - 生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス		○ 大安寺川河畔広場整備及び鵜沼南町河川敷公園ワークショップの開催 ○ 雑沼南町河川敷公園の整備摂東に関する鈴田会を開催					郏市再生救備計画に記載↓ 実施できた				5ワークショップ等を開催し、まちの魅力を持続させていく方針の検討 。			
	持続的なまちづくり 体制の構築		部○ まちづくり会への意見聴収					市再生整備計画に記載し、実施できた				くり会等との協働活動及び支援を行う。			

様式2-2 地区の概要

地域、拠点及びイベント等のPR活動を促進する。

・中山道鵜沼宿地区、おがせ池地区、木曽川河畔地区等の重点風景地区における景観の維持に向けた周知や啓発を引き続き行う。

各務原東部地区(岐阜県各務原市) 都市再生整備計画事業の成果概要 まちづくりの日標 目標を定量化する指標 従前値 目標値 評価値 単位:人 拠点間の歩行者数 409 H24 612 H28 636 H28 大目標:歴史・景観拠点のネットワーク化による地域全体のにぎわい創出 目標1:美しい景観と豊かな自然に親しむことができる憩いの空間を創出する。 歩行者の快適性 単位·% 24 H24 85 97 H28 H28 目標2:地域の歴史・景観資源を活用し交流人口の増加を目指す。 ネットワークの良好性 単位:% 12 100 H24 100 H28 H28 基幹事業 地域生活基盤施設(情報板) 基幹事業 高質空間形成施設(カラー舗装等) 本語老人ホーム ■基幹事業 地域生活基盤施設(情報板) 各務野歴史街道サイン整備 N=23箇所 HIME 基幹事業 6高州 提案事業 ■基幹事業 地域生活基盤施設(広場) ふれあい広場 A=1,445m2 関連事業 O A SKALL ●緑亮小 〇部連事業 子育で世代活動支援センター 1箇所 CAN CO TO BE 各務原幼春里 おがせき S務原東部地区周遊ルート整備L=10.1kmの内部分 各務野歴史街道サイン整備 N=23箇所 · 数据被保护来等 基幹事業 高質空間形成施設(自然色舗装) **★山小●** 基幹事業 地域生活基盤施設(情報板) ■基幹事業 高質空間形成施設(カラー舗装等 中山道舞蹈病 関連事業 魏沼駅東部第二地区 都市再生整備計画 -----8.8hs(宝積寺南4号公園 建苯基苯 地域创造支援事業 歴史拠点・景観資源のPR]提案事業 地域創造支援事業 木曽川河畔游歩道整備 L=1.100m 大安寺川周辺地区サイン整備 N=30箇所 |標果手乗 | 司根都は又様手乗 景観重要建造物保存事業 N=2件 |理案事業 地域創造支援事業 家屋等の修景補助事業 N=6件 提案事業 提案事業 ○関連事業 (都)犬山東町線パイパス整備事業 地域創造支援事業 まちづくり活動推進事業 基幹事業 高質空間形成施設(自然色舗装) 家屋等の修景補助事業 研修・ワークショップの開催 RORNE. 提案事業 事業活用調査 N=6件 事業効果分析調査 理案事業 まちづくり活動検査事業 基条幹事業 高質空間形成施設(自然色舗装) K曾川河野遊歩道整備 L=1,100m mention | mantage 東東監督 ファニーデー た山市歴史的風致維持向上計画 A=180ha - 医登録文化財修理助成事業 - 景観重要建造物助成事業 大安寺川河畔游歩道整備 L=1.500m **景観形成敗成事業**〉 達成されたこと ・自然色舗装による大安寺川河畔遊歩道の整備により、自然に親しみながら木曽川と各務野歴史街道を連絡する歩行空間が確保された。 ・木曽川河畔遊歩道及び大安寺川河畔遊歩道の整備完了により、安全に自然と親しむことのできる歩行空間や公園・広場が確保され、さらなるにぎわいが予想される。 ・坊の塚古墳は広場としての整備が完了し、歴史拠点や景観資源等の活性化に寄与した。発掘作業は継続して実施しており、今後はさらなる魅力の拡大が期待される。 ・大安寺川周辺地区、各務野歴史街道サイン整備により各拠点間のネットワークが強化された。 ・地域住民の保全意識の向上と景観助成による個人所有の文化財や歴史資源等の維持・改修により、歴史的な景観の維持が図られている。 ・地域住民やまちづくり団体等と協働で整備を進めたことで、魅力ある落ち着いたまちづくりの推進が図られた。 ・中山道鵜沼宿等においては、地元や行政との協働によるイベントによりにぎわいがみられる。 まちの課題の変化 地元ボランティア団体の取り組みが継続されたことによって、各務原市内史跡巡りのガイドブックが作成できた。 ・庁内関係各課が地元まちづくり会の定例会や勉強会に参加することで、地域住民との情報交換が可能な体制が構築できた。 ・ハイキングコースマップをリニューアルすることにより、各拠点や地域全体のさらなる活性化が期待される。 ● 新たな課題 ・木曽川河畔遊歩道、大安寺川河畔遊歩道ともに快適な歩行空間を維持していくため、定期的な除草等による適切な維持管理に努める。 ・遊歩道は、観光客のほか地域住民も多く利用しているため、観光客誘致とともに地域住民の利用促進を図る。 ・各務原東部地区の今後見込まれる歩行者の増加に併せて、必要に応じて安全対策を講じる。 ・中山道鵜沼宿等の拠点施設のにぎわい創出を地区全体に波及させるため、さらなる歴史拠点や景観資源等の磨き上げ・活性化とブランド化を図る。 ·犬山城下町への観光客を各務原市へ誘導するためのPR活動の促進が求められる。 ・中山道鵜沼宿等で行われているイベントへの誘客の促進や、遊歩道や歴史街道を活用したイベント等の実施によるさらなる歴史資源等の活用が求められる。 ・新築や改築される建物について、歴史や景観に配慮した整備がされるよう、転入者や建物所有者等に対しさらなる理解や啓発が求められる。 ・犬山城、木曽川、大安寺川、おがせ池等の優れた景観に配慮したまちづくりが引き続き求められる。・親しみのある歩行空間を維持するため、沿道環境等を整備する。 今後見込まれる歩行者増加に併せて、歩行者の安全を確保するための対策を推進する。 今後のまちづくり 観光客の利用促進とともに、市民の健康増進のため遊歩道利用を促進する。 の方策 拠点のまち歩きの仕掛けづくりにより、集客効果を全体に波及させる取り組みを展開する。 (改善策を含む)